

1. 漁業影響調査に対する基本的な考え方

当海域においては、洋上風力発電の導入により、漁業への負の影響が生じた場合に、公平な視点で迅速かつ適正に対応を行う必要があることから、占用期間内において、継続的な漁業影響調査を実施することが必要不可欠であり、漁業協調を行う上でも重要な調査であると考えている。

また、これらの調査結果については、専門家等の意見も踏まえた上で、漁業者と共有されることで、漁業者としても漁場の現状を知ることができ、発電事業者と漁業者の関係についても良好になる事も期待されるものと考えている。

2. 漁業影響調査の対象とする主な魚種及び漁法

魚 種	主な漁法等	備 考
さけ	定置網	回遊魚であることから、バイオロギング等の活用
たら（まだら）	底建網・刺し網	
すけとうだら	刺し網・はえなわ	
ほっけ	定置網・底建網・刺し網	
ひらめ	底建網・刺し網	
かれい類	底建網・刺し網	
ぶり	定置網	回遊魚であることから、バイオロギング等の活用
いかなご（こおなご）	火光を利用する敷き網	
そい類	刺し網	
するめいか	定置網・いか釣り	
みずだこ	はこ・いさり・かぎ等	
なまこ	なまこけた網	
うに	手網等	
あんこう	刺し網	
にしん	刺し網	

3. 漁業影響調査で検証する事項

①主な魚種以外に係る調査

- ・当海域における主要となる魚種以外についても、定期的な定点調査や漁業者からの聞き取り調査等によって地域内の漁業の状況等の把握に努めること。

②潮流や海水温等の調査

- ・風車等の設置に伴い、予期せぬ潮流等の海域の環境変化が生じる可能性もあることから、その影響についても継続的にモニタリングを行うこと。

③その他

- ・漁業影響調査については、モニタリング手法等、現時点において確立されていない状況にあることから、漁業統計等の既存データの活用についても継続的に行うほか、漁業者等と協議の上、定期的な定点調査を継続して実施すること。
- ・調査の実施にあたっては、既往知見を基に、漁業者や専門家等の意見等も取り入れながら、調査計画を立てることを基本とするが、最新の知見の積極的な活用も検討し、より分かりやすい調査結果となるよう工夫をすること。
- ・各種調査の実施にあたっては、地域内の漁業者と連携し、漁業者とともに調査を実施していくことを基本とすること。

4. 発電事業との因果関係

洋上風力発電の導入の有無に関わらず、漁業においては、自然環境による影響が生じるものであることから、影響が洋上風力発電の導入によるものであるのか、他の要因によるものなのかを区別するための仕組みについて、漁業者や専門家等の意見も取り入れながら、協議を行い、指標となるものを整理すること。